

新型コロナウイルス感染症の影響による新たな取組等

構成機関名	コロナ禍における新たな取組（相談や研修の実施方法の見直し等）について、実施した取組内容、その理由、効果、今後の課題などを記載してください。
厚生労働省 北海道労働局職業安定部 職業安定課	<p>1. 企業説明会及び面接会等のイベントのオンライン開催 新型コロナウイルス感染症の影響から、企業説明会等の開催にあたっては、一部、これまでの対面からオンラインへ切り替え実施。オンライン環境の問題やオンラインへの抵抗感（不慣れ等）などから、対面より低い参加状況。また、大学等の学生はほとんどがオンライン授業や企業側ともオンラインでのやり取りが主となる中で、比較的順応できていると思われるが、高校生はオンラインによる企業側とのやり取りが難しい面等を考慮し、6月の企業説明会は対面により実施した。</p> <p>2. オンラインによる職業相談や各種セミナー等の実施 令和2年度からハローワークにおいて試行的かつ段階的にオンラインによる職業相談等が進められ、現在はコロナ対策のための代替手法ではなく、求職者の個別ニーズに対応するための支援手法の一つとして展開している。対面とオンラインのそれぞれにメリットとデメリットがあるが、今後は、対面による相談支援等を組み合わせ、就職促進を図るとともに、オンライン支援の水準を引き上げることが重要と考える。</p>
法務省 札幌矯正管区	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域援助に係る職員研修をオンラインで実施（平年は対面方式）。移動時間がなく、職員の負担が減ったことに加え、研修対象以外の職員も気軽に聴講できるようになり、研修を受ける機会の確保につながっている。
札幌 少年鑑別所	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新型コロナウイルス感染症の情勢を勘案し、オンラインでの面談環境を整えるための予算がつき、現在整備中。
北海道 ひきこもり 成年相談 センター	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 相談は切れ間なく続けている。感染対策としてアクリル板の設置、加湿器の設置、来所者・職員の検温手指消毒を行った。訪問においても出来る範囲の感染対策を講じて行った。件数は少ないものの、交通機関を利用するのが怖いという当事者の希望があり、オンラインを利用しての相談を行った。 ➤ ケース検討、相談、研修会をそれぞれ、地域事情に合わせてオンラインで行い、今後も継続していく。 ➤ 道内の感染者数がほぼ居ない地域においては、来町しての研修会等を実施しても良いと回答をもらい、今年度実施する予定。

新型コロナウイルス感染症の影響による新たな取組等

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電話やメールを含め、ひきこもり相談においては、件数が激的に減少している訳ではなく、コロナ禍においても変わらず、問題は継続しており、切れ間なく支援が続けられるよう体制を整えるべきと考える。その際のオンライン相談の機器や環境、人員の確保などは課題と感じる。 ➤ 札幌市では特にコロナ禍をきっかけに学校へ行けなくなるケースから、不登校相談が増えている。そのため、今後、道内においても不登校からひきこもりといった相談が増加してくる恐れがある。 ➤ 職員の研鑽としてのひきこもり関連研修会はオンラインが増え参加しやすくなった。特にアーカイブ配信は業務都合に合わせて視聴できることもあり、利用がしやすい。
<p>さっぽろ若者サポートステーション（江別岩見沢若者サポートステーション）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ （札幌市若者支援総合センター事業含む） ・年度当初より、来所に不安や負担を抱える方に配慮したサービスとして、オンライン等による個別面談やプログラムの実施（案内強化含む）、また、SNSを活用した情報提供を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 来所相談件数：1,188件（令和3年4月～9月末現在） 電話相談件数：1,730件（同上） メール相談件数：504件（同上） オンライン相談件数：125件（同上） SNSによる情報配信：125件（同上） 若者のオンライン事業に対するリアクションとしては、大きな抵抗が無く希望される方が多い一方で、端末やネット環境は所有しているものの、自宅で安心して参加できる環境（同居家族に干渉されない空間）が無いという理由で、参加に至らない方も一定数いた。 ・学校連携事業においてもオンラインを活用し、中退リスクを抱えた生徒へのオンライン面談や、教員への研修ならびにケース検討会議を実施した。現在も学校からのオンライン等による対応ニーズが多く寄せられている。
<p>あさひかわ若者サポートステーション/サポステ・プラス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新型コロナウイルス感染症の影響により、社会とのつながりを持たない者は平年より増加。 ➤ 感染リスクの対策として、オンライン面談を検討するも、利用者にとっては来所することが“唯一の外出”といった点から、感染対策を徹底した上で対面での支援を行ってきた。 ➤ ただ市内の相談者は来所できても、市外や各地域からの利用者に対しては、感染リスクや移動距離の問題などで対面での支援は難しく、オンライン面談が望ましいと思われる。 ➤ Zoomなどオンラインでの支援を検討しているが、オンライン環境の整備、相談者在住の地域の関連機関と連携などが不十分なこともあり、現行の課題としている。 ➤ 道北圏が支援対象地域であることから、オンライン支援の環境整備が急務であり、居住地域によってある利便性の問題を改善していきたいところである。

新型コロナウイルス感染症の影響による新たな取組等

くしろ若者サポートステーション（NPO法人ワーカーズコープ）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 相談について、zoom や Google meet 等を活用したオンライン面談及び個別プログラムの導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染防止対策、また片道 3 時間以上の遠方地域の相談で移動の負担緩和等の為に導入しているが、オンライン環境の問題やネット接続のできる通信機器がない、等の設備の課題、また自宅内で落ち着いて相談できない、家族に聞かれるのではないかなど等の声もありあまり利用数は伸びていない。今後、オンラインでのアクセスもしやすくすることが課題。 ➤ セミナー等について、希望者が自分の良い時間帯で視聴できるよう配信型を予定しているが、撮影や動画作成までを限られた人員、予算で実施するため非常に現場の負担が大きくなっている。
はこだて若者サポートステーション/サポステ・プラス	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 来所への心的負担を考慮し、コロナ禍でのサポステ支援にて、オンラインセミナーを年4回実施。 ➤ オンラインで受講するという事に慣れていない利用者が多く、web 面接も最近では増えているため昨年度から zoom の使い方のセミナーを年1回実施。 総利用件数：2064 件（令和元年度）→1697 件（令和2年度） 相談件数：1257 件（令和元年度）→1188 件（令和2年度） ➤ 課題としては、オンラインでの相談をするということについてハードルを高く感じる人もおり、参加の促しがなかなか難しく、普及が難しい。また、zoom 等の使い方がまず分からないという方やネット環境が不安定という方もいるのでサポートする必要が出てくるため、スタッフへの負担はある。
とまこまい若者サポートステーション/サポステ・プラス	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オンラインによる相談を実施しており、希望に応じた対応も可能となっている。
オホーツク若者サポートステーション	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 屋内での集団活動を避けるため、屋外活動を導入した（畑作業、ごみ拾い）。結果的に、畑作業は参加者が多く、好評。ごみ拾いは、地域への活動のアピールにもなった。 ➤ オンライン面談を導入した。スタッフの抵抗も大きかったが、1 件やってみると、徐々に取り組みが広がった。コロナを気にして来所を控える利用者と、屋外プログラムと併せてつながり続けることもできた。ただ、全般に利用者は意外と自宅にWi-Fi 環境がない人が多く、つながりにくいのが課題。 ➤ 出張相談先と本所を業務用のオンラインツールでつなぎ、本所のスタッフがオンライン面談することで、出張相談の利用者がいろいろなスタッフと話す機会が増えた。スタッフのオンライン面談慣れも進めることができた。 ➤ 職業人講話にオンラインセミナーを導入した。聴くことが主体の講座のため導入しやすく、参加者もますます増えた。 ➤ サポステ説明会をオンライン同時開催した。ZOOMのミーティングIDを広告に掲載すると、その効果か「聞くだけオンライン参加」が増えた。

新型コロナウイルス感染症の影響による新たな取組等

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オンラインは、結果的に遠方の利用者につながりやすくなる効果が大きかった。コロナを気にして来所を控える利用者は、オンラインにも抵抗を示す傾向があるようにも思える。 ➤ ラインは、現在、サポステ事業では利用を中止されているが、最も普及しているアプリなので、一番利用したいツールではある。
おびひろ 若者サポ ステーション/サポ ステ・プラス	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Zoom などを利用したオンライン面談及びセミナーの準備をしていたが、利用者のPC 環境（PC など通信関係がない場合もあり）が整わず、未実施。 ➤ 相談支援員対象のオンライン研修に参加。上記のようなオンラインの活用等について、道外のサポステ事業との情報交換は出来たが活用には至らず。 ➤ 就職氷河期世代の昨年度（R2）利用者の多かったサポステ 16 事業者と情報交換に参加した。
北海道中央 児童相談所	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新型コロナウイルス感染予防のため、来所相談や巡回児童相談については、新型コロナウイルス感染症対策（相談予約時に、相談者に対して当日の対応等の説明、来所時の検温や手指消毒等）を行いながら実施。 ➤ 各種研修、会議、カンファレンス等については、オンライン（Zoom などを使用）で実施。 ➤ 新規に一時保護する場合は、感染リスクを減らすため「一時保護時体調等チェック票」による事前確認を実施。 ➤ 今後も新型コロナウイルスの感染状況に応じて、上記の対応を行う。
北海道経済 部 労働政策局 雇用労政課	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和3年度 給付金付座学・職場研修事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響等により、離職を余儀なくされた非正規雇用労働者や就職氷河期世代、就職できなかった大学生等を対象に Web による座学研修及び職場研修を行い、就職を支援。 ・ 上期実施分（6～9月）の参加者数が、当初計画数より伸び悩んだ。 ・ 下期（1～2月）は周知活動に充実を図るなどして参加者数の確保を図る。